

平成三十二年度

第七回

守山地区少年少女の主張文集



青少年健全育成推進守山地区協議会

は　じ　め　に

継続は力なり、地域の皆様にご理解を賜り少年少女の主張発表会が開催されますことは、主催者の一人として大変意義あるものと感謝いたしております。

少子高齢化時代、環境問題を重視している昨今ではありますが、各小中学校生徒の皆さんは何事においても希望と未来に向け、今やるべきことは何かを訴えどのように行動したいのかを素直に表現しております。

小さな積み重ねから大きな収穫が得られます。

これらの主張を多くの地域の皆様にお聞きいただき、人と人との出会いを大切にできる心豊かな青少年に成長し住みよい故郷田村町を築いてくれることを確信致します。

この文章を多くの皆様に御覧頂き青少年健全育成になお一層のご尽力とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、応募くださった児童生徒の皆さん、ご指導いただいた各学校の先生方、そして関係者各位様に対し厚くお礼申し上げます。

平成二十二年十一月六日

青少年健全育成推進守山地区協議会

会　長　平　栗　茂

目次

【最優秀賞】

今わたしにできること

青い目の人形を調べて

家族のきずな

私の大好きな 田村町

【優秀賞】

ごみ問題の原因は

できることから始めよう

ひとりひとりができること

未来の田村町にー

私が伝えたいこと

谷田川小学校	六年	石井綾香	1
守山小学校	六年	柳沼彩瑛	2
御代田小学校	六年	三瓶裕哉	4
守山中学校	三年	平栗由利絵	6
谷田川小学校	五年	田母神薫乃	7
守山小学校	五年	大和田朝日	8
御代田小学校	五年	平栗文斗	9
守山中学校	一年	三瓶公靖	10
守山中学校	二年	矢吹萌	11

最優秀賞

今わたしにできること

谷田川小学校 六年 石井 綾香

毎年五月にクリーン作戦を方部ごとにします。歩道のごみ拾いをしながら帰ります。燃えるゴミと燃えないゴミに分けてひろっていきます。タバコのすいがらやジュースの缶やコンビニの袋などが落ちています。時にはこなごなになったガラスの破へんもあります。ゴミ拾いが終わったあと、みんなのゴミを合わせるとすごい数のすいがらがあつてびっくりしました。おどろくことにゴミ拾いをして何日かたつと、またすいがらや空き缶やビニール袋が落ちています。わたしたちは、毎日集団下校で帰るので子どもではないと思います。わたしたち子どものお手本とならなければならぬ大人の人かわたしたちよりちょっと年上の人たちかなと思っています。

また道路だけでなく川や山にもゴミが目立ちます。なぜ捨ててしまうのかわたしには理解できません。ゴミはゴミ箱に捨てるという当たり前のことが当たり前にどうして出来ないのでしょうか。わたしには弟と妹がいます。妹はまだ二才です。わたしは、妹にはゴミはゴミ箱に捨てるようにいつも気にかけています。仲の良い友達の家族とバーベキューすることがあります。今までは最後の片付けは大人に任せていましたが、ゴミのことを考えてから最後まで手伝わないといけないと思うようになりました。

ゴミを捨てることで自然の生き物にも影響を与えてしまいます。自然にもどるゴミと自然をこわすゴミがあると思います。

植物や動物が出すものは、土や水の中で分解されて自然にもどります。野菜の皮は土にうめると約六ヶ月でなくなるし、家ちくなどのふんを畑

にまけば土の中で植物の栄養になります。しかし、鉄やプラスチックガラスなど人工的なゴミは土にうめてもいつまでもなくなりません。だから、リサイクルできるものはリサイクルしなければならぬと思います。自然にもどらないゴミを人間はたくさん出しています。

今、わたしにできることはゴミを出すときに分別したりすることや川や山にゴミを捨てたりしないで家に持ち帰ることです。

田村町の国道四十九号線沿いにはきれいな花だんがたくさんあります。その花だんにはゴミがなくいつまでもきれいな花だんになってほしいなと思っています。私たちの町を美しく人も動物も植物も気持ちよく住める町にしたいです。



最優秀賞

青い目の人形を調べて

守山小学校 六年 柳沼 彩瑛

私は、総合学習の時間に守山小学校にある「青い目の人形」について調べました。青い目の人形は、いつも一番目立つ児童昇降口にケースに入って大切に置いてあります。なぜこの場所に古い人形が置かれているのかと不思議に思ったので、その謎を調べてみたいと思ったのがきっかけです。

総合学習の時間に、学校に置いてある資料や、ゲストティーチャーに聞いた話を元に調べてみると「青い目の人形」に隠された思いを知ることができました。

「青い目の人形」は昭和二年に「世界の平和は子どもから」というスローガンのもと、アメリカ合衆国から日本に送られた人形です。その人形が守山小学校にも贈られてきました。人形の贈られた各地の学校では、青い目の人形に対して、親しみやすい歌を作ったり、踊りを踊ったりと喜んで迎えたそうです。

しかし日本とアメリカの間に戦争が始まると、青い目の人形は敵国がおくったスパイだと言われるようになってしまったそうです。そのため人形は手足をとられる、水に沈められる、焼かれるなどして大半の人形がこわされてしまいました。私の学ぶ守山小学校でも当時「青い目の人形をこわそう。」ということになったそうです。けれども当時、守山小学校の教員だった伊藤房子さんが、

「私が青い目の人形を処分する。」
と言い、青い目の人形を持って行き処分したそうです。しかし、伊藤さ

んは処分するフリをして、学校の倉庫に人形をかくしたそうです。当時その行動は大変危険な行動で、もし誰かに人形をかくしている様子を見られてしまったら、警察につかまってしまうものだったそうです。でも伊藤さんは、その危険を背負いながらも人形をかくし通したそうです。私はその伊藤さんの勇氣と覚悟に感動しました。

それから時が過ぎ、日本は戦争に負け誰もが「青い目の人形」の存在を忘れてしまっていた時、あるテレビ番組で「青い目の人形」について特集が行われました。その特集を「青い目の人形」が贈られた時に歓迎会で踊りを踊っていた、西間木さんと言う方が偶然見ていました。西間木さんは、自分が歓迎会の踊りをした「青い目の人形」のことを思い出し、今もきつと守山小学校にあるはずだと思い学校に連絡をしたそうです。そして連絡を受けた当時の教頭先生が、守山小学校のある教室にひっそりと汚れた状態で置かれていた青い目の人形を発見したのだそうです。

ここまで調べて、私ははっとしました。それはなぜ昇降口に人形が置かれているのかということについてです。昇降口に大切に置かれているのは、きつと今学校に通う私たちに、過去に戦争があったことや、その恐ろしさそして平和について考えて欲しいという想いがあり、それを伝えるために置かれているのではないかと思ったからです。

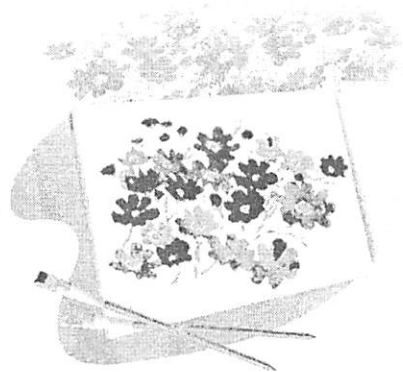
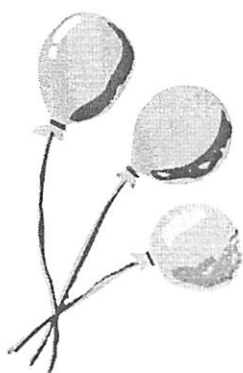
これらのことから、私はぜひこの守山に住む方々をはじめ、田村や郡山市の多くの人達にこの「青い目の人形」について知ってほしいです。

なぜならこの人形には、世界平和への願いがこめられているものだからです。今日本は平和な国となりましたが、世界を見渡してみるとまだまだ平和でない国々があふれています。だからこそ今から八十年以上前に、アメリカと日本二つの国の平和をこめて、贈られたこの人形の意味を今こそ大切にしたいと思います。

また日本が戦争をしていた頃、私たちが住むこの守山に世界の平和を考え、人形をも憎むべき敵としていた時に、「人形には罪は無い。」と言いい、人形にこめられた願いを信じ、勇氣をもって命がけで守った方がいるということを、私たちの地域の誇りとして伝えたいからです。

私は「青い目の人形」について調べ、人形にこめられた思いや、人形が今まで歩んできた歴史を学ぶことができました。これまで当たり前のように見てきた守山小学校にある「青い目の人形。」この人形についてよく知った今だからこそ、これからもずっとこの人形を大切にしていきたいと思います。そして下級生や私の家族にもこの人形の歩んできた歴史を伝えたいと思います。

ぜひ、みなさんも一度守山小学校に飾られている「青い目の人形」を見にいらっしやいませんか。そしてこの人形にこめられた願いや人形が歩んできた歴史を想像して、日本の平和や世界の平和について考えてみませんか。



最優秀賞

家族のきずな

御代田小学校 六年 三瓶 裕哉

六月、父が倒れました。

朝方にトイレに行く途中でうまく歩けなくなり。やっとの思いでトイレにたどり着いた時に、倒れてしまったのです。家中が大さわぎになりました。すぐに救急車を呼び、母に付きそわれて車に乗せられて行く父の姿を見て、ぼくはとてもこわくなりました。でも、大丈夫と何度も自分に言いかけながら、救急車を見送りました。ぼくだけではなく、家族みんなが同じ気持ちでいたと思います。

母からの連絡をずっと待っていると、八時ごろ、すぐに手術するという連絡が来ました。家族みんなで病院に向かい、母から病名を聞きました。「くも膜下出血」——脳をおおっている「くも膜」の血管にできた動脈りゅうというこぶが破れ、出血する病気です。手術には七時間かかるということで、ぼくは家にもどりました。不安とドキドキの長い時間でした。家中が暗く静まりかえっていました。手術が終わったという連絡が入り、母が病院から帰って来たのは夕方でした。疲れ切って、母はすぐにねてしまいました。

次の日に、もう一度手術をする事になりました。ぼくは、父の病気が重いことを改めて感じ、大変な事になったと思いました。悪い結果が頭にうかんできて、なみだができました。でも、父はがんばりました。二回目の手術も無事成功しました。

集中治りよう室に面会に行き、ようやく父に会うことができました。父に声をかけるとぼくのこと分かるようでした。頭の中を手術したの

で、もしかしたらぼくのことを忘れてしまったのではないかと心配だったので安心しました。たくさん点てきがつながら、それをぬいてしまわないように手をひもでしばられている父が、とてもかわいそうでした。それから毎日、母はぼくと姉と弟を面会に連れて行ってくれました。

ぼくは、少しでも父のエネルギーになるように、毎日の出来事を話して聞かせました。でも、集中治りよう室の面会は三十分で、一人ずつしか入れません。たくさんしゃべりたくても、時間が足りませんでした。また、父も疲れるようですぐにねてしまいます。それでも、毎日行っていると、少しずつ父が良くなってきているのが分かりました。

父の体につながっていた点てきが少なくなり、頭につながっていた管がなくなったころ、一般病棟に移るという知らせが入りました。母は家族みんなの前で、初めて父のことについて話し始めました。今の病状、手術のくわしい内容、そして、今後こういう症が残るかも知れないという事です。母は、

「どんな事があっても、家族みんなでお父さんを支えていこう。」と言いました。ぼくは、もっともって手伝いをして父と母を助けようと思いました。

一般病棟に移ってからは、母の仕事が休みの時にしか、面会に行くことができなくなりました。でも、行くたびに父の容態が良くなっているのがよく分かります。一番うれしかったのは、ねたきりだった父が、立って自分の力で歩くのを見た時です。なみだが出ました。父はすごく強いと思いました。

そして、母もすごいと思いました。母は毎朝病院に行き、それから仕事に行き、そして帰りにまた病院によってから家にもどるというハードな生活を送っていました。ぼくたちには決して不安な様子を見せず、一度も弱い言葉を口にしませんでした。でも、きっと心の中では何度も泣いていたと思います。

父が元気になっていくのと同じくらいずつ、さびしく静かだった家の中も明るくなっていくようでした。みんなでようだんを言い、笑い合っていたのに、父が入院してからは、どんなにおもしろいテレビを見て

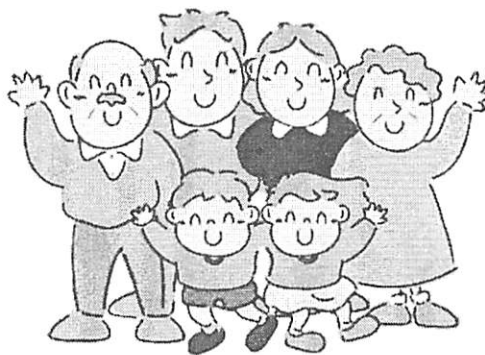
も話はずみませんでした。今まで、家族が家にいることは当たり前だったのです。父が入院し、母が家にいないことが多くなり、祖父母が家のことをほとんどしてくれる日が続いて初めて、家族がそろっていることがとても幸せなことなんだと分かりました。そんな事を考えたことは一度もなかったけれど、今は家族一人一人がとても大切な存在だと思っています。

父は病院食以外のものも食べられるようになり、母に「あれが食べたい、これが食べたい」とわがままを言うようになりました。

「困ったお父さんだね。」

という母は、少しうれしそうでした。「わがまま」と言えるようにまで元気になったことが、うれしかったのでしょう。また、リハビリ専門の病院で日常生活にもどるための練習を始めることになりました。父は左手と左足のマヒがあり、これから大変なりハビリが待っています。ぼくは、家の手伝いととも父のリハビリも応援していこうと思います。一日も早く家族全員がそろって笑い合える日が来るように・・・。

家族は、ぼくの宝物です。



最優秀賞

私の大好きな 田村町

守山中学校 三年 平栗 由利絵

私は、田村町が大好きです。それはなぜかというと、人と人がつながっている町だと実感できるからです。特に私の住んでいる谷田川は、皆が声をかけあい、皆が仲良しだと感じるからです。

私は、近所の人に会った時や、通学中に会った人全員に、元気よく挨拶するよう心がけています。挨拶はコミュニケーションの第一歩であると思うからです。

ある日、近所のおばあちゃんと仲良くなることができました。それもきっかけは挨拶からでした。私は、小さい頃から、祖父や祖母と暮らしていることもあり、お年寄りが大好きです。

毎日挨拶をしていると、近所のおばあちゃんから「将来の夢とかは決まったのかい？」と質問されました。私は、「介護関係に進みたいと思っているんだあ」と答えると、そのおばあちゃんは、「じゃあ私が、由利絵ちゃんの最初の患者さんになろうかな。」と言ってくれました。そのおばあちゃんは、おとしに脑梗塞で倒れていて、半身が不自由になってしまっていました。動かない手足を必死で動かそうと毎日リハビリを頑張っています。その頑張っている姿を見るたびに私は元気をもらっています。そんなおばあちゃんが「私がこの病気にかかっていなかったら思ったこともあったけど、よく考えたら、病気にかかっていなかったら散歩する機会も由利絵ちゃんこんな風に、かわかることもなかったのかと思うと、病気になってラッキーだったのかなあ」と言われました。私はその言葉をきいて涙があふれてきました。多分一生忘れることのない

言葉だと思っています。おばあちゃんは、病気になったことをプラスに考えていて凄いなあと思いました。そして、私に人のために生きる勇気を与えてくれました。

人は人との関わりの中で生きていて、生かされていると思います。一人一人が人との関係を大切にしていけば、田村町はもっといい町になると思います。

最後に挨拶の大切さや、人を思いやる気持ちの大切さを教えてくれた両親に感謝し、この町が人と人との輪で広がるようお願いながら私の発表を終わります。



優 秀 賞

ゴミ問題の原因は

谷田川小学校 五年 田母神 董乃^{ゆきの}

私はよく、道路ぞいの歩道にいろいろなゴミがあるのを見かけます。すぐ近くに、「ゴミをすてないで下さい」という看板があるのにそれをむしし、どぶにすててしまうのです。そのゴミをだれが捨てるのでしょうか。

何日たっても、何日たっても、そのゴミはその場所に、ずっとあります。拾ってくれる人がだれもないのです。ひと月ぐらいすぎると、だれかが拾ってくれたのでしょうか。ちょっとキレイになっています。

私は、ゴミをどぶにすてず、ゴミ箱にすてたらいと思います。みなさんはどうですか。

私は、国語の勉強で江戸時代はすく道などがキレイだったことを知りました。それがなぜ今は道ばたや川などがキレイじゃなくなってしまったのでしょうか。

マラウイという国では、私たちと同じぐらいの子どもたちは、ペットボトルやびんの王かんなどをいろいろなおもちゃにしてあそんでいるそうです。私たちが、すててしまう物までいろいろなふうに、変身させるのです。お金もかからず、かん境にいいことをちがう国では、しているのです。

日本はどうでしょう。ペットボトルや飲物の空きビンなどはすててしまいます。やがて、川や、道ばたにすててしまいますね。すてるならば、ちゃんとゴミ箱にすてればいいことなのになぜ川などにすてるのか私には不思議です。そのえいきょうで、川がにごったり空気がわるくなって

いくのです。

ペットボトルや、ビンなどがありますが、みなさんの食べた物も川にすてたりしていませんか。食べ物や、ペットボトル、ビンなどがあるえいきょうで昔はいた魚もいなくなってきたのです。

私は、お母さんから昔は谷田川にも魚がいて、よくつりをしたとききました。だれが一番最初に捨てたのでしょうか。私は、だれかがゴミを、まちがって川に捨ててしまったのが原因だと思います。

日本人が一日に出すゴミの量は一キログラムぐらいと言われています。一年で、三六〇キログラムぐらい出しているそうです。まさかそんなに出しているとは思っていません。私はゴミになるおかし入っていた箱を、ちょっとした物などにつかっています。あそぶ道具にしたりしています。

みなさんの捨てたゴミが水に流れてどこにいくのでしょうか。最後にどこにたどり着くのでしょうか。

みなさんがゴミ箱にゴミを捨てることで、かん境にいい事をする事になると思います。身近なところのできることをしましょう。

みなさんも、ゴミ問題について真剣に考えて、きれいな水の流れる谷田川が自まんできる田村町になるといいなと思います。



優秀賞

できることから始めよう

守山小学校 五年 大和田 朝日

わたしは、国語でゴミ問題について学習しました。江戸時代やアフリカのマラウイでは、ものを大切にされていて、わたしたちがごみとして捨ててしまうものを再利用していたことを知りました。

そこでわたしは、身の回りの生活をふり返って、ものの再利用について考えてみました。クラスの人に、身の回りのものを再利用しているかアンケートをとってみると、二十三人中十九人とかなり多くの人が再利用していて、様々な再利用の仕方がありました。

まず、牛乳パックでは、鉛筆立てがありました。三十個以上だといすになるそうです。わたしの家では、キャンプの時にまな板に使ったり、まわりに和紙をはり付けて小物入れにしたりしています。また、水を入れて氷をつくるときにも役立っていました。牛乳パックだけでもこんなに多くのことに再利用していたんだと思いました。

次は、麵棒入れの再利用です。使い終わった入れ物とはともしっかりして捨てておきたいなと思います。貯金箱にしたり、丸めてネクタイやベルトを入れたりしています。小さくなってしまった鉛筆入れにもしています。捨てようとしてもなかなか捨てられない鉛筆を入れています。他にも、小さい頃に着たかわいいボタンを入れたり、海で拾った貝殻を入れて小さなマリモを育てたりしています。また、かわいいシールをはって、小さなアメ入れに使っています。

それから、ペットボトルです。ペットボトルは、もともと飲み物が入

っていたので、違う飲み物を入れてペットボトルとしてもう一度使っています。横半分に切ると、冷蔵庫の野菜入れにもなります。ペットボトルを二つ用意して、ビーズやビー玉を入れると、マラカスになります。植木鉢にもできます。取っ手のあるペットボトルをななめに切って、シヤベル代わりにも使っています。

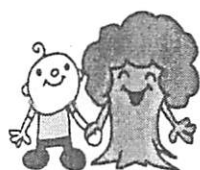
わたしは、自分でいろいろ工夫してものをつくるのが好きです。はじめの役目を終えたこれらの牛乳パックや綿棒の入れ物やペットボトルの使い方を考えるのはとても楽しいです。役目の終わったものたちが、またわたしたちによりしくねと話しかけているような気がしてきます。

その他には、お風呂の水を洗濯に使う、お米のとぎ汁を植木鉢の花にやる、よごれたタオルをぞうきんにする、広告でつくった箱をごみ入れにする、油を使うときに新聞紙を下に置いて油がとばないようにする、穴があいた靴下やもう着られないTシャツをそうじに使ってそのまま捨てるなどたくさんありました。

わたしは、守山小学校の運営委員会で、エコキャップや空き缶の回収を呼びかけています。エコキャップは四百個で一人分のワクチンを買うことができます。外国の恵まれない子どもたちの命を助けることができます。空き缶は、たくさん集めるとリサイクルの業者さんが買い取ってくれます。そのお金で紫泉の里のみなさんにCDプレイヤーをプレゼントするのです。キャップも空き缶もそのままにCDプレイヤーを買ったでしよう。けれども、リサイクルすることによってものとしてもう一度輝いて、また、人のために役立つこともできるのです。

わたしは今回、ものの再利用について考えて、わたしたちの身の回りには再利用できるものがたくさんあることにあらためて気がつきました。再利用の仕方についても発見がありました。

これからも、ものを大切にして、ものの再利用を楽しみながら、よりよい生活をめざしていきたいと思っています。



優 秀 賞

ひとりひとりができること

御代田小学校 五年 平栗 文斗

僕たちの生活を豊かにするためには、たくさんできることがあると思います。ぼくはいくつか考えてみました。

一つ目は、ボランティア活動です。ぼくが通っている、御代田小学校では、去年の十月下旬に民友新聞にエコキャップ運動のことがのっていました。それを知った六年生がすぐエコキャップ運動を開始しました。それを今の六年生がひきつぎ、中心となってやっています。去年は、十七kg、今年は現在二十五kgくらい集まっています。約四kgのエコキャップで一人分のワクチンに換えることができます。エコキャップを集めるだけで、命を救うことができます、小さなボランティアなので、みなさんもぜひ参加してほしいと思います。

二つ目はリサイクル運動です。ペットボトル、缶、ビン、プラスチックなどは、リサイクルされて洋服や生活用具に生まれかわっています。スーパーマーケットやコンビニなどで、回収されています。みんなで協力しましょう。あと前の日のおふろの水を洗濯の水に再利用することができます。水も大切です。使わなくなった歯ブラシも窓の小さな溝をそうじすることができます。とても便利です。あとカレンダーが使えます。使い方は、月が終わったカレンダーを切りとって、小さく手の平サイズにしてうらをメモ用紙に使うことができます。このように色々な物が再利用できるのです。工夫一つだと思っています。

三つ目は、自然環境を悪くしないことです。ゴミ袋やプラスチックなどを燃やすと、有害ガスやダイオキシンがでるので燃やさないようにし

ましょう。大気汚染の原因になります。あと犬を飼っている人は散歩中に犬がフンをしたら、それは必ず飼い主の責任なので持ち帰りましょう。

四つ目は地球温暖化のことです。今車が出す排気ガスが原因で、地球がよごれてしまったり、地球温暖化が進んだりしています。それで、エコカーができました。ぼくは、プリウスやインサイトの他にもっともっとエコカーができるといいなと思います。それは、温暖化が進むと北極や南極や氷河が溶けて、地球の海水の水位があがり陸地が少なくなるからです。被害にあう人がたくさんです。なので二酸化炭素をあまり出さないようにしましょう。そのためにはエアコンの温度を調節して省エネルギーががんばりましょう。小さな小さな一つでも、たくさん集まれば大きな力になるからです。それと地球には地下資源が限られています。使いすぎると、すぐに地球がしぼんでしまいます。みんなで、大事に使っていきましょう。

最後に、田村町を住みよい町にすることです。住みよい町にするために色々な工夫ができると思います。それは、清潔でごみのない町、そして、交通事故や殺人事件などのない明るい町になってほしいと思います。みんなで思いやりの心を持って生活することだと思っています。そして、笑顔で毎日生活できる田村町にみんなで行きましょう。



優秀賞

未来の田村町に――

守山中学校 一年 三瓶 公靖

今、自分たちは未来の田村町を壊しているのかもしれない。田村町を自然豊かに、暮らしやすい町にするには、自分たちがエコをしていかなければなりません。

自分の身近な場所からエコを意識していくのが大切です。家庭から出るCO₂の排出量は日本全体の約五分の一もあります。便利な家電製品や自動車などを使えば使うほど大量のCO₂が排出されます。そこでCO₂が一番多くでているものはなにかについて考えました。すると、電気ということが分かりました。

電気をこまめに削減することや電気をなるべく使わないなどそれだけでもエコにつながります。小さいことでもいいんです。それを、続ければ大きなエコになるからです。そうすると、未来の田村町が少しずつ明るくなっていくと思います。他人事にしないで、一度は未来の田村町について考えてほしいと思います。電気のほかに水を削減しても、エコとなります。手洗いのときに、水道をしめて、むだな水をださないように心がけたり、シャワーを一日一分家族全員で減らしてみましよう。それを、一年間続けるとCO₂を約六十九キログラム削減できます。環境にも良く、おさいふにも良いので、みなさん一度は実行してみてください。

未来の田村町に自分ができる事は、見方を少し変えればたくあると自分な思います。例に挙げた、電気や水を削減することや、食べ残しをしないなど環境に良い活動を地域の人、一人でも多くの人に知ってもらって、そして実行して欲しいなあと思います。

田村町の緑はともきれいで、たくさんの緑があり、そして花もあり

色あざやかな町だなあと自分はいつも実感しています。それなのに、時々タバコの吸いガラや食べたあとのおかしの袋などが落ちているのをみつけるときがあります。このゴミを捨てた人の気持ちは自分には分かりません。なぜ、捨てたのかどうしてゴミ箱に捨てなかったのか、このようなことが自分の心の底からでてきます。こういう人がいると田村町のきれいな緑、花などを、からしてしまいう可能性があり、未来の田村町が消えてってしまいます。くいとめるためには、一人ひとりのゴミを捨てないという意識が必要です。もし、ゴミが落ちているのをみつけたら、きちんとゴミ箱に捨てるという環境に良い行動、そして未来の田村町で豊かに暮らすための行動を、地域の人々から伝えていきたいなあと思います。

自分が通ってる守山中学校の校庭のどまん中に立って、一周してみると周りには木がたくさんあり守山中を囲んでいます。まるでいつも自分たちは木たちに見守られているような気がしました。すごく、きれいな景色で気持ち落ちつく所です。もしあの木たちが周りから消えてしまったらとても悲しいです。この世には、人間だけが生きているわけではありません。自然も人間と同様に生きています。楽だから、めんどくさいからという理由で自然、そしてきれいな田村町をこわしてほしくないです。そんな考え方はやめてほしいです。

このように、未来の田村町に今、自分たちが出来ることは家庭からの、電気の量などを節約することです。もう一つは、ゴミを捨てない、食べ残しをしないなど、環境に適した行動をとることです。この二つのことを頭におき行動することによってエコ、そして省エネが実現化されます。未来の田村町のために――。



優秀賞

「私が伝えたいこと」

守山中学校 二年 矢吹 萌

私は、田村町を、もっとより良い町にするために、主張したいことが二つあります。

一つ目は、交通関係です。

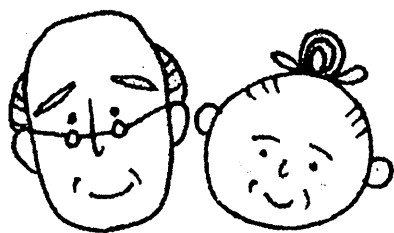
最近、新しい信号機や横断歩道が作られるようになりました。それに狭い道路やでこぼこだった道も新たに改装され、交通の便が良くなりました。

しかし、その中で、私が気になることがあります。それは、信号機の青から赤に変わる速度が速いことです。特に、岩作の所にあるあの信号機は、お年寄りにとっても、私たちにとっても、危険だと思います。たとえ、四十九号線の交通量が多いからといって、私たち、横断者の横断する時間を減らしていい訳ではありません。その横断者がもし足腰の悪いおばあさんだったら、車いすの人だったらということを考えてみて下さい。私はその光景を見た事があります。私が自転車をおりて信号機が青になるのをまっています。するととたんに、腰の曲がった、つえをついているおばあさんが来しました。そして青になるまでしばらく待っていました。信号が青になり、私は急いでわたりました。ですがおばあさんは、一步一步ゆっくりと歩いていました。すると、ものの十秒くらいで、点滅し、赤になりました。それを見るとおばあさんは、まだ半分も来ていなかったもので、あわてて戻ってしまいました。おばあさんは、とても困った顔をしていました。私は、そのような人が、もう出てほしくないと思いました。

二つ目は、高齢者関係です。

今現在、高齢者が急増しています。悲しい事に、家でミイラ化した遺体が見つかる事件もありました。そのニュースを見る度、胸が苦しくなります。私は、少しでも多くの高齢者が、楽しく暮らせるようにしたいと思いました。そのために、私は、老人ホームをもっと増やした方がよいのでは、と考えました。

現在、この田村地区に老人ホームは、1つしかありません。なので、もっと数を増やせば、より多くの人が笑顔で、楽しい生活を送れると思います。もし、道で重い荷物をもった、おじいさん、おばあさんがいたら、進んで持ってあげたり、もしバスや電車の中で立っているお年寄りがいたら、優しく手を引いて、いすに座らせてあげられる—そんな人になりたいです。そして、このようなことをできる人が、もっともって増えれば良いと思います。



いつまでも元気でいてね。



講 評

第七回「守山地区少年少女の主張」作文の審査の任に当り、その責任の重大さを感じながら田村町を良くするために児童・生徒の皆さんが、日頃より考えている作文に接する事が出来、心が和む思いがすると同時に、大変力強く感じました。今の若い人はとか、今の子供達はと言うことを時々聞くことがありますが、決してそんな心配はありません。常日頃自分が感じて居る事や、毎日接して疑問に思っ居た事を調べた事や、地域を良くするための提案など、どの作文も大変立派な作文ばかりで優秀つけ難く苦労しました。

最優秀賞には、小学生の部で谷田川小学校六年 石井綾香さん・守山小学校六年 柳沼彩瑛さん・御代田小学校六年 三瓶裕哉さん 中学生の部は守山中学校三年 平栗由利恵さんの作文が選ばれました。

＊ 石井 綾香さんの作文は、クリーン作戦を通して環境を大切にする事の大切さを主張する事が良かったと思います。

＊ 柳沼 彩瑛さんの作文は、人形の由来を調べ、八十年以上も前の人形にまつわる歴史や平和の大切さを非常に強く主張された事が、大変良かったと思います。

＊ 三瓶 裕哉さんの作文は、家族は僕の宝と強調され、重い病気にかかった父に対して母を含めて家族みんなで助け合って頑張っ行こうとする覚悟は感動をも感じられ非常に良かったと思います。

＊ 平栗 由利恵さんの作文は、大好きな田村町と高齢化社会になりつつあるこれからに向かってあいさつを含めて思いやりのある地域社会を作ろうという主張が大変良かったと思います。



今回は九人の発表がありました。地域を良くする為にしっかりした考えや自覚が感じられ頼もしく又、力強く
思いました。

子供は家庭や地域の宝物です。主張が生かされ立派な地域が作られ発展する事を心より願っています。

田母神 利 顕

平 栗 茂

草 野 保 雄

